

# 追悼・森内俊雄

—眉山は救いの山である



もりうち・としお 1936年、大阪生まれ。父は板野郡藍住町勝瑞、母と妻は徳島市生まれ。8歳のときの徳島大空襲の体験を「眉山」に描き、5度目の芥川賞候補になったほか、『翔ぶ影』で泉鏡花賞、『氷河が来るまでに』で読売文学賞と芸術選奨文部大臣賞を受賞。ほかに書道をテーマにした『真名仮名の記』、鳴門を舞台にした『梨の花咲く町で』などがある。2023年8月5日、肺炎で死去。

「もう一度、眉山を見たい」。

そんな手紙を残して作家の森内俊雄は昨年8月、86歳で亡くなりました。8歳のとき徳島大空襲に遭い、眉山に逃げ込んで九死に一生を得た森内。その体験を「眉山」などの小説に描いたほか、人間への深い洞察に満ちた『氷河が来るまでに』など数々の名作を残しました。徳島への熱い思いや追悼文、残された珠玉の言葉などを通して、その死を悼みます。

2024年 6月29日(土) - 9月29日(日)

- [会場] 3階 文学常設展示室  
[講演会] 7月27日(土) 午後2時から2階講座室。文学講座「芸術・文化を語る」の第2回として富永正志(当館館長)が講演。申し込みが必要。  
[休館日] 月曜日(ただし7月15日、9月16日、23日は開館し、翌日休館。8月12日は開館)  
[開館時間] 9:30 ~ 17:00  
[観覧料] 一般310(250)円 高校・大学生200(160)円 小・中学生100(80)円

\* ( )内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は土・日・祝日と夏・秋休み期間は無料。  
高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

